

第15回近江鉄道沿線地域公共交通再生協議会

令和7年(2025年)3月27日(木)13:45~15:00

於:ピアザ淡海 3階大会議室

出欠状況

(沿線市町)

彦根市	和田裕行・彦根市長
近江八幡市	小西理・近江八幡市長
甲賀市	岩永裕貴・甲賀市長
東近江市	小椋正清・東近江市長 【副会長】
米原市	角田航也・米原市長
日野町	堀江和博・日野町長
愛荘町	有村国知・愛荘町長
豊郷町	伊藤定勉・豊郷町長
甲良町	熊谷裕二・甲良町副町長
多賀町	久保久良・多賀町長

(滋賀県)

滋賀県	三日月大造・滋賀県知事 【会長】
-----	------------------

(公共交通事業者)

近江鉄道(株)	藤井高明・代表取締役社長 【副会長】
(一社)近江鉄道線管理機構	南川喜代和・代表理事
信楽高原鐵道(株)	山本和良・専務取締役業務部長
西日本旅客鐵道(株)	杉山幸介・京滋副支社長
(一社)滋賀県バス協会	野村義明・専務理事 (欠席)
(一社)滋賀県タクシー協会	松尾武文・専務理事

(道路管理者)

国土交通省近畿地方整備局滋賀国道事務所	谷成二・所長 (欠席)
---------------------	-------------

(交通管理者)

滋賀県警察本部交通部	井上和幸・首席参事官
------------	------------

(公共交通利用者)

滋賀県教育委員会	福永忠克・教育長
滋賀県PTA連絡協議会	山添友美・会長
滋賀県民生委員児童委員協議会連合会	町田勉・理事
びわこ学院大学教育福祉学部	逢軍・教授
(一財)滋賀県老人クラブ連合会	西澤基治・理事
滋賀県地域女性団体連合会	山本身江子・副会長

(学識経験者)

(一社)グローバル交流推進機構	土井勉・理事長
関西大学経済学部	宇都宮浄人・教授
滋賀県立大学環境科学部	轟慎一・准教授

(その他)

国土交通省近畿運輸局滋賀運輸支局	杉田茂・支局長
(一財)地域公共交通総合研究所	町田敏章・専務理事
(一社)滋賀県病院協会	川村宏・事務長会委員
滋賀県市町社会福祉協議会	大塚ふさ・会長会委員
(公社)びわこビジターズビューロー	西川直治・専務理事 (欠席)
滋賀県商工会議所連合会	二橋省之・理事 (欠席)

(オブザーバー)

国土交通省近畿運輸局交通政策部	岩崎靖彦・次長
国土交通省近畿運輸局鉄道部	道久聡・部長

○土井委員 黒字化すると、鉄道を中心にした活動に誇りが感じられる。非常にいい発表ばかりでありがたい。特に18ページの令和7年度の計画のうち、上段にある近江鉄道沿線の企業の意見交換会、これは極めて大事なものだと思う。先ほどの輸送の実績にもあったが、通勤定期の実績が増えている。こういう増えている状況をもっと勢いづけることを意図した取り組みは非常に大事である。企業と書いてあるが、実際は沿線の市町の皆さんにもぜひご参加をいただいて、企業と近江鉄道を生かして行政の中身を進めていくという良い機会にさせていただけたら、よりありがたいと思う。ぜひ、日程が決まれば皆さんに参加していただければありがたい。よろしく願います。

○三日月会長 他にご意見はあるか。

○宇都宮委員 八日市の近江鉄道ミュージアムのリニューアルということで、特設ブースを設けようということがあった。ちなみに、私も関わっている市民活動として近江鉄道沿線を盛り上げる「こまち広場しが」という活動を実施しており、その中で世界的な鉄道模型会社のKATOという会社と一緒にコラボをしたことがある。それがきっかけでこのミュージアムの経営の話とつながることがあるように思う。このように様々な形でネットワークが形成されることがプラスになると思う。そういった地道な活動から広がっていくことの理解とともに、ぜひ、皆さんと一緒に実施できればと考える。

○三日月会長 様々な取り組みがつながりとなり、そのつながりがつながりを広げていく。とても大事なことだ。

他にご意見はあるか。

○角田委員 8ページのハッピーライドパス・1DAYエンジョイパスはたくさん利用されたということで良かったと思う。発売結果の中に、一時的には減収となったという記載がある。今後、こういった利用促進事業をする上で、今回のこのパスの中で、損益分岐点の検証などをしっかり行い、説明をしてほしい。

○三日月会長 今の話は後ほど出てくる割引き施策などにもつながる話である。とても大事なこと。減収をしてまでこういう取り組みをどこまでどれだけやるのか、という本質的な課題だと思う。今後、そういう情報も共有しながら議論したい。

他にご意見はないか。後で提起する議題にも関連するので、無いようであれば、その中でもご意見をいただきたい。

3 議題

(1) 近江鉄道沿線地域公共交通再生協議会令和6年度事業実績見込み・収支決算見込み および 令和7年度事業計画(案)・収支予算(案)について(資料4)

○事務局 ～資料4により説明～

○三日月会長 今年度やってきたことと、来年度やろうとしていることを合わせて、収支決算の見込みと来年度の収支予算について説明があった。何か質問や意見はないか。よろしいか。

それでは、今、説明のあった内容について、説明のとおり承認することによいか。

～会場から「異議なし」の声あり～

○三日月会長 異議なしと認め、説明のとおり承認する。

先ほど事務局より説明があったが、決算については追って確定次第、書面で協議をしたい。事業計画は行政だけではなく、より多くの皆さんに参加してもらえようと呼びかけ、案内する。協力をよろしく願います。

(2) 国スポ・障スポ 滋賀 2025 観戦応援事業(案)について

(シルバーパス対象者拡大・学生向け観戦応援回数券の造成) (資料5)

○事務局 ～資料5により説明～

○三日月会長 今、説明があったとおりである。この議題は皆様の関心も高く、ご意見も出しやすいと思う。

好評のシルバーパスについては、沿線市町以外の方にもご利用いただけるよう広げてみる。期間は国スポ・障スポということで絞って今回はやってみる。そして学生向けの観戦応援回数券も、新たに近江鉄道に乗ってもらうという趣旨でやってみる。無料も検討事項としてあったようだが、無料というはいかなものかということから、今回は回数券の配布、1乗車につき100円という形でやってみる。

何かご意見はないか。

○角田委員 シルバーパスについては、国スポ・障スポの観戦応援ということであれば、その期間内だけでいいのではないかと思います。3月31日までという利用期間にするとメッセージ性が薄れるのではないかと。

学生は大会期間中に1乗車につき100円であるが、シルバーパスの方は100円でずっと3月31日まで利用できるということなのか。学生向けの観戦応援回数券とシルバーパスの違いがあるので、その理由を教えてください。

○事務局 シルバーパスの対象者拡大については、登録受付期間もあり29日間に限定をしている。しかし、正直どれだけの利用があるかの予測はしづらい。もし反響が非常に大きく、期間の延長を望む声があれば、受付期間については柔軟に再度検討する。

また、運賃は、シルバーパスは来年の3月31日まで、平日、休日問わず1乗車100円でご利用いただける。学生もどれだけの利用があるかは非常に読みづらいので、今回はあくまでも国スポ・障スポの開催日だけに限定をして実施する。割引施策を実施することにより、沿線内外からどれぐらいの方が近江鉄道を利用するのかという、まず実証実験的な意味合いで実施し、このような料金設定によって多くの利用が見込めるとのことであれば、次の施策として、どういう形で若者に対して利用促進施策を実施していくかを考えたい。テストケースでまずはやってみようという意味合いも兼ねて、今回の国スポ・障スポ期間だけに限っている。

○三日月会長 まずは、そういった形で社会実験をやってみると。シルバーパスも学生向けの観戦応援乗車券もいずれも運賃は1乗車につき100円であるが、学生向けの観戦応援乗車券は回数を限定するという。回数券は何枚程度の配布を想定しているか。

○事務局 まだ固まってはいるが、4枚程度でどうかと事務局では考えている。

○三日月会長 回数券1枚あたり1乗車につき100円ということ。この心は、駅で手続きをしていただくと駅員の方の手間も発生するので、何らかの形で配付し、学生の方の手元に届けて使ってもらおうという方式か。

○事務局 今はそのような形であるべく駅でのやり取りが生じないように、事前に生徒に回数券を配付し、利用するときに回数券と100円を支払っていただくことを想定している。

- 三日月会長 滋賀県PTA連絡協議会山添委員、何かご意見はあるか。
- 山添委員 学生向け観戦応援の回数券は、配布という形で記載されている。配布の仕方について、もう少し詳しく教えていただきたい。例えば、学校を經由して直接届けるのか、役場に学生が取りに行くのか。その辺について教えてほしい。
- 事務局 今、検討している案は、なるべく利用する方が窓口に行く手間を減らすために、教育委員会、学校の理解をいただければ、学校を通じて全生徒に配布いただけたらと考えている。
- 山添委員 回数券を直接もらえる形であればすごくありがたい。学生が対象になると、回数券の配布は直接でも可能かと思うが、結構、アプリを使った形で取り組みがあれば、学生自身も見せやすかったり掲示をしやすかったりがあるのかなと思う。もしよければ検討していただきたい。
- 三日月会長 紙の回数券を配布するのは昭和のような取り組みだが、その辺りは検討したい。学校にいろんな事情で行けない子どもに対して、どのように配布するかという配慮も併せて検討したい。
- 滋賀県老人クラブ連合会の西澤委員、何かご意見はあるか。沿線市町の65歳以上だけではなくて、大津の方も今回登録すれば、1乗車につき100円で乗れる。
- 西澤委員 前回のときに、知事からそういう話があった。ぜひ、進めていただきたい。国スポ・障スポはちょうどいい機会だ。また、何かさらにそれを広げてほしい。
- 三日月会長 ボランティア等で参加していただくシルバーの方も大変多いと聞いている。そういう方々の要望にも役立ててほしい。
- 正直、事務的に議論しているときには、安い割引に超したことはないが、本当にそれでいいのか。申請してパスのカードを作るが、手間もかかり、これも今時カードか紙かというのはあるが、手間がかかるとすれば、それをできるだけ一定期間、集中して、また駅も限定してやった方がいいのではないかということで、29日間の取り組みになった。
- 今回は近江鉄道の運賃を割引する施策だが、例えば、今後、近江鉄道とも接続しているJRの割引はどうかといったことも議論の対象になってくるかもしれない。割引施策について先生方から何かご意見はあるか。

○宇都宮委員　　これらの取組みも、ハッピーライドパスの取組みもいいと思う。割引施策に対して、そうは言っても損益も考えなければいけないという意見があった。その通りだとは思いますが、一方で、単に運賃収入だけで損益を考えるのは狭いと思う。例えば同じような取組みで、富山市は100円のおでかけ定期券を作っている。この取組みについて京都大学と本格的な実証を行ったところ、年間約1億円の事業費で、医療費が約7.9億円削減されるという試算結果となった。これは大規模な調査で分かった。つまり事業費はかかったが、それを8倍上回るだけの医療費の削減率が上がったというケースがある。従って他に運賃収入が上がる下がるだけではなく、地域のお年寄りが健康になり、それによって介護費、医療費が減っていく。これらの効果に加え、経済効果もある。これらは無視できない数字であるということも、すでに富山市で実証されている。そのあたりも踏まえた上で評価していかなければいけないと考える。

○三日月会長　　そういったことも、ぜひこのシルバーパスの利用状況などを見て、いろいろと検証なり仮説を持てるといい。

○宇都宮委員　　様々な施策を実施する際は、ぜひ、データを取っていただきたい。これもコストがかかるが、頑張って取る。さらに言えば、それによって、どの辺の地域の人が来ているのか、どのぐらいの年代の人が来ているのかが分かるので、今後につなげてほしい。先ほどアプリの話があったが、私はアプリでも紙でもいいと思うが、電子化するとデータが取りやすい。そういった意味からも、今回の取組みを電子化するかどうかは別にして、ハッピーライドの場合は、紙の方が圧倒的に多いが、その辺りを工夫すると、より将来につながる取組みになると思う。

○轟委員　　31ページの下の方の記載はこれだけ読むと意味が分かりにくい。この学生向けの取組みは、国スポ・障スポの会期中だけの利用なのか。それとも、備考欄を読むと万博に参加とも書いている。これも当てはめようということなのか。

○事務局　　学生向けの取組みについては、国スポ・障スポ観戦応援事業ということで、大会期間だけの利用を想定している。

○轟委員　　説明では休日だけではなく平日にも利用できるという話だったが、備考欄の内容についてもう少し詳しく説明してほしい。

- 事務局 備考欄の記載は「滋賀・体験の日」ということで、来年度県立学校の生徒については、国スポ・障スポの観戦と万博に参加する場合は、欠席扱いしないという取り扱いになるため、平日でも国スポ・障スポの観戦に行くことができるので、今回配付する回数券を利用させていただきたいという趣旨。
- 轟委員 先ほど、滋賀県PTA連絡協議会の山添委員からも質問があったと思うが、これは学校で配るときには、全員に配付するのではなく、あくまで申し入れに対して配る想定なのか。
- 事務局 今の想定は全員に配ることを想定している。
- 轟委員 全員に配るとなると、例えば、通学定期を保有している学生が回数券を友達に譲るケースも出てくるかもしれない。今回は紙ベースで、アプリと違って属性が紐付いていないので、どのような使われ方をするか分からないが、性善説にたっているということか。
- 事務局 性善説にたっている。回数券に学校名・乗車駅・降車駅を記入していただいた上で利用していただき、後々これらのデータを分析することも検討している。
- 轟委員 県立学校ということは県立大学も対象に考えているのか。国スポ・障スポ大会のボランティアスタッフとして大学にも動員がかけられると聞いている。学生に限らず、ボランティアスタッフの移動費用に関しては、何か県として対応を検討されていたりするのか。それも旅費として出す形になるのか。
- 事務局 詳しいことまでは確認していないが、高校生等のスタッフについては、基本的に会場に立地する高等学校の生徒が会場のボランティアスタッフになるということで、基本は自転車や徒歩を想定しており、場合によっては、公共交通機関のバスで選手と同様に会場まで移動すると聞いている。高校生のボランティアについては長距離の公共交通機関を乗り継いでの移動は想定されていないと聞いている。
- 轟委員 またそのあたりを確認してほしい。
- 三日月会長 学生をどこまで含めるのかは、確かに論点ではある。他にないか。
それでは、今いただいたご指摘やご意見を踏まえて、引き続き事業者、行政にて検討し、その上で実施の運びになればまた発表する。もし、実施するとなれば、多くの方に知っていただき、利用していただかないといけない。より良い制度になる

ように検討し、その周知や利用にも委員の皆さまにお力添えいただければと思う。あわせて、実施した結果がどうだったのかという検証、データも取りながら、どういう利用状況だったかを分析し、その後の施策に生かしたい。

4 その他

一般社団法人近江鉄道線管理機構 令和7年度事業計画及び収支予算について（資料6）

○近江鉄道線管 令和6年4月1日から上下分離し、大きな事故もなく1年過ごすことができ、感
理機構南川代表 謝している。

理事 一般社団法人近江鉄道管理機構の令和7年度の計画と収支予算について事務局
から説明するが、その前に私から2点報告する。

公共交通、鉄道については安全運行が第一である。今回、大阪大学が実施する線
路などの状況をモニタリングする技術の実証実験に機構も協力することとなった。
資料の写真にある黒いシートと白い機器を電車に設置し、黒いシートが電車の振動
を検知する。振動の様子から線路の状況を測定し、白い機器でデータ化してそれを
会社の端末に送ってくる仕組み。大阪大学から近江鉄道線をフィールドとしてこれ
らの実証実験をしたいという申し出があり、近江鉄道とも相談の上、昨日3月26
日に協定を結んだので、この場でご報告させていただく。

もう一点は、車両導入についてのご報告である。今年度西武鉄道から車両2編成
4両を購入し、現在は運用開始に向けて改造しているところである。車両の導入も
国の社会資本整備総合交付金の対象となるが、ただ単に西武鉄道の中古車両を買っ
ても交付金の対象にはならない。安全性が確保できるようなものにしてもらわない
と駄目だということなので、交付金の対象になるように、電車にカメラをつけて、
そのカメラで線路の状況を録画し、その録画データから線路の状況を把握するとい
う取り組みをすることになった。近江鉄道ではブルーの電車が走っているが、西武
鉄道から買ったのは黄色い電車である。できれば「ドクターガチャコン」という名
前でPRを含めて進めていきたいと考えている。今はまだ整備中だが、次年度から
黄色い電車が運行を開始する予定なので、この場でご報告させていただく。

○近江鉄道線管
理機構山田事務
局長

～資料6により説明～

○三日月会長 大阪大学との実証実験や車両に搭載カメラを入れてドクターガチャンコにしようという新しい面白い発想だ。どなたかご意見はあるか。

○小西委員 近江鉄道線管理機構の収支予算資料の歳出欄に「国費」と書いてあるが、国の補助対象という意味かと思う。資料の表現は正確にお願いしたい。国費 100%ではなくて、市町・県の費用負担も発生している。この様にかかれると大変遺憾だ。

○三日月会長 国だけではなく、県費も市費もきちんと入っていることが分かるように記載する。今後に反映したい。

5 閉会

○三日月会長 予定した議題は全て終了した。何かこの際、発言したいことはあるか。

○土井委員 上下分離、公有民営化ということで、近江鉄道は全国のリーディングプロジェクトとしてここまで来た。今までは基本的には鉄道を軸にどうするかということ議論しており、近江鉄道の活動が中心だったかと思う。加えて、これからは公共交通を軸にして都市開発をしていくことが大事になる。この考え方は TOD「Transit Oriented Development」という言葉で表される。例えば、賑わいの多いまち、環境負荷の少ないまちを作っていく。これは世界の潮流だが、「未来へあかねさす湖東地域」を実現するためには、まさにそういう潮流を捉え、鉄道も大事だがその周辺環境も非常に大事で、駅に向かってのフィーダーサービス、あるいは沿線市町の土地利用計画を鉄道と合わせて、望ましい形に近づけていく。こういった取り組みがこれから必要になってくる。これは予算というよりは、皆さん方の活動をどう作り上げていくかが非常に大事になってくると思う。

そういう意味では、この協議会は非常に重要で、可能であれば市町あるいは鉄道予算も含めた連絡会議みたいなものでフィーダーをどうするか、沿線の土地利用をどうするかということをお互いに報告し合うような仕組みも、今すぐとは言わないが、できるだけいいタイミングで作ることを検討いただければと思う。

○三日月会長 大事な視点だと思う。この協議会でどのように取り扱うのか、皆さんに参画いただくのか検討したい。

他にご発言はあるか。

- 町田委員 私の所属する団体は様々な地域でこの様な案件に関わっている。ここまで真剣かつ具体的に行動に移されている協議会や沿線の事業者はほぼない。本当の意味でのリーディングモデルであり、自信を持って進んでいただけると、宣伝になっていくと私自身は信じている。引き続き、参加してキーマンになっていきたいと思う。
- 三日月会長 お褒めの言葉をいただいた。糧にし、励みに頑張りたい。
- 私たちは全国の事例を知らないで、全国や世界を見ている方からいろんな知見をいただけると、大変勉強になる。そういったことも共有していきたい。
- 他にご発言はあるか。
- 宇都宮委員 交通経済研究所が『運輸と経済』という雑誌を出版している。硬い名前だが、実は一般的にも読みやすいものとなっている。3月号では私が主担当で編集をしたローカル鉄道特集が掲載されている。雑誌の座談会では滋賀県の越後管理監も入って近江鉄道の話をしており、表紙は近江鉄道である。まさに滋賀県の取り組みが日本全国の関係者が読むところで出ている。海外などの様々な事例が掲載されているほか、毎号話題の書籍を紹介しており、3月号では、土井委員が執筆された「ガチャコン電車血風録」という書籍も紹介されている。この雑誌は普通の本屋にはあまり売っていないが、ネットでは簡単に購入できるので、ぜひ手に取ってほしい。
- 三日月会長 また、みんなで手元にとって読んでみたいと思う。ほかにはよろしいか。
- では、本日の会議はこれで終了とする。

以上